

手塚治虫作品集・その32 『ワンダーくん』

はじめに

『ワンダーくん』（一九六〇年頃）に手塚が少年少女の雑誌で世に送り出した作品の一つである。犬語を自由自在に操る能力を具えた少年「ワンダーくん」。本日はこの作品を鑑賞してみたい。

犬という動物は、私たち人にとって古来からずっと、生活のなかで欠かすことのない生き物である。この犬は、飼い主である主人に対して最も忠誠な生き物でもあることは云うまでもなからう。これを「忠犬」という。そして、主人が教え込む言動のなかで人語に近いことばで私たちに語りかけようとする賢い犬も存在する。犬の一歳は、人の十歳に相当するとも言われている。長生きする犬は十六歳とも。これが本当だとすると、人の歳でいえば百六十歳になるのだ。

「ワンダーくん」の登場

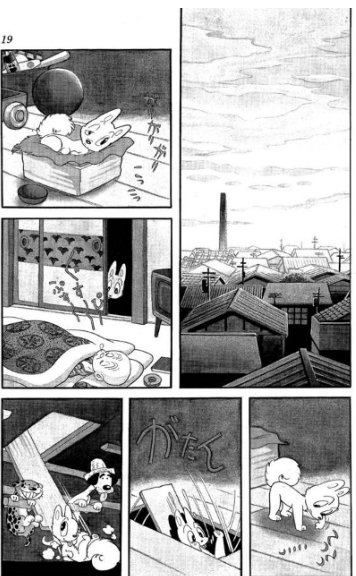
この「ワンダーくん」を考察するとき、手塚治虫作品には、題名もよく似た『ワンサクくん』という作品を想起する人も多からう。

「ワンサク」は犬の名前であり、この犬は野良犬の子犬で、お父さんがワンマン会社に居着いたこの犬を退職を賭けて引き取ってきて家で飼うことになるという設定である。

このワンサクは、十円玉を探してあてる特技を有しているのだ。この能力が後々大いに役立つと言う内容のようだ。

犬の社会を人語でこれを表現して見せる。その動きもまた手塚作品の魅力なのであるまいか。だが、この作品も長続きせず投げ出してしまふ。何が氣

に入らないのか、結末がつかない（完）とした作品でもある。



題名は本統にそっくりなのだが、この『ワンダーくん』は主人公である少年の呼び名なのである。ワンダー少年は、東京湾の小島に犬の群れと一緒に住んでいるという設定である。ある夜のこと三人の男達が彼を掠いに来る。そして、眠り薬をかがされ島から連れ出されるのだ。このワンダー少年の本名は、「南部カン太郎」(第1回23コマ)ということ



を両親に抱かれた赤ん坊の時の写真を連れ去られた処の主人より見せられる。この男は、なぜワンダー少年にこれほどまで執着し、「養子にする」と興味を抱くのだろうか？

ワンダー少年のお父さんは、科学者のようだ。南部博士と呼ばれ、「平和のためいろいろのはつめいをした。それで世界平和連合から博士のいぞくへ金がおくられるのだ」(第1回37コマ)

再び、東京湾の小島へ。ここでワンダー少年は、犬の群れを率いる立場にあるようだ。彼らが野犬のように人様の物を奪って食さないために、食料を調達することも行っている。その大量の食料である肉や魚を運び屋として登場するのがあの「ヒゲ親父」さんなのだが、「クズオヤジ」と呼ばれている。そして、少年を「ワン太」「第2回6コマ」と呼ぶ親しい間柄のようだ。



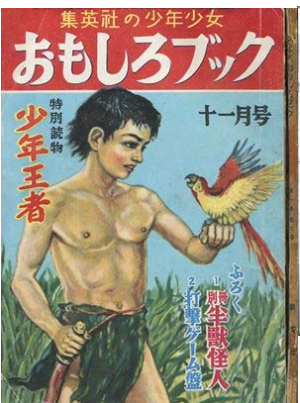
◆ワンダー少年の身なりは、髪が長く、身には一糸の服をも纏わない裸体であり、且つ足も裸足で描かれていることからして、「ワールド」なイメージがここに描き出されている。「おれと決闘してかいたらけらいになつてやらあ」(第

2回13コマ)と言う。ここで「決闘」の表記語示されているが、「決闘」とどう異なるのだろうか？「決斗」の表記語は25コマにも見える。



この最後にサングラス眼鏡をかけた紳士がクズオヤジの子どもと闘う前に現れた。そして彼を見て其の名をつぶやくのである。「フム、ナ・ン・ブ、カンタロー、南部漢太郎」(第2回41コマ)これで、完璧な本名が明示されたのである。その紳士は、「ニコラスレッド卿」と言い、世界平和連合から五百万ドルの金銭を預かつ

ている人物としてここに登場する。



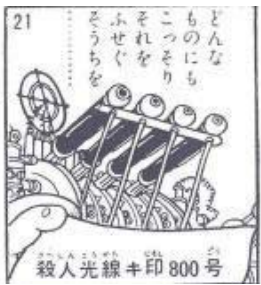
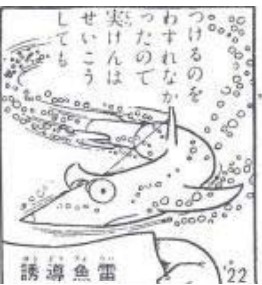
アイスキャンデーをたべすぎてはらなんかこわさないように「放射能がまじってるかもしれないぞハハハハ」

場面がある。「アイスキャンデーをたべすぎてはらなんかこわさないように」「放射能がまじってるかもしれないぞハハハ、ハハ」第6回20コマ ※何ともない時代のコトバであれば、右から左に聞き流してしまう、いや見流してしまう1コマに違いない。だが、現代の私たちには、今日も国会で与野党代表が事の重大さを議論する国会中継の映像がテレビに流れている時である故、その受け止め方もやや異なるのではあるまいか？手塚さんは笑いながら教師に伝えさせているのだ。実は未来のこども達へ！のメッセージとして……。

このお話が掲載された子ども向け雑誌「おもしろブック」は、一九五四（昭和二九）年四月から一九五五（昭和三〇）年六月にかけて発売されたのだ。この創刊号に「少年王者」ワタル少年が登場していた。そして、後にテレビ実写作品とも成った時代でもある。この作品と何となく似ていませんか……。



学校では、クラブ勧誘が続く。そして選んだクラブは、運動部ではない「科学研究クラブ」だった。その理由は、「それに……いいにくいことなんだけどもきみがはいつてくれると犬やほかの動物生態をしらべるのに……とてもべんりなんだ」〔第5回36コマ〕



だが、ワンダー少年は、父親が遺した「正しく」の文書を読むだけの能力を身につけていなかった。そこでお金を受け取り、学校に行つて学ぶことを決意する。この学校での彼の素行と才能は、もっぱら職員室で「なにしろフン、一ヶ月まえにはイロハもかけなかった」「よく中学には入れたね」「知能指数は百五十だそうですね。天才てきなあなたの子ですよ」〔第4回9コマ〕とうわさ話なるくらいであった。

父親の南部博士が実際に発明した機器は、いずれも戦争のための兵器であった。其の名も怖ろしい忌まわしい名前の兵器ばかりなのである。①「細菌爆弾3号作戦」②「殺人光線キ印八〇〇号」「誘導魚雷」といった武器であった。だが、博士はこれらの殺人兵器を使い物にならないように仕組んでおいたため、自国の軍隊に射殺されてしまったのだという。母親は行方知れず、このため、世界平和連合は博士の功績を称え、その遺族に金銭授受が運ぶ手配となったという。



「ここいらいつたいをとりこわし
げんしりよくこうじょうちたい
原子力工場地帯をつくる」〔第7回〕
「ここに原子炉をすえる」「いよいよ
日本にも原子力時代がきたです
な」〔第7回〕「工場をたてるのに
はんたい
のものが
おおぜい
いるから
な」〔第7
回6コマ〕



☆原子力工場をたてるので夜屋の人たちはおいだされる。ワンダーくんは立ちあがったぞ
この『ワンダーくん』のなかで、新聞広告として手書き文字が見えている。



「たずね犬／ニコラス・レッド卿のかい犬チロくんがゆ
くえふめいになりました。ごぞんじのかたはすぐにおし
らせください」〔第7回17コマ〕

また、ヒゲオヤジこと伴大作が江戸っ子の懐かしい且
過を切ります。「べらぼうめ、さあ金だうけとれっ」「さ
あこいつは長屋じゅうのはらいだっ」「この長屋を原子力
工場なんかにかせるもんか、それーっ、鬼はーそとっ」
〔第7回29・30コマ〕



「はばかり」ということばの意味表現には、このような差異があることを
端的に解説し、ちよつと駄洒落話を見せてくれます。
【課題】それぞれの「はばかり」の意味について説明してみましよう。

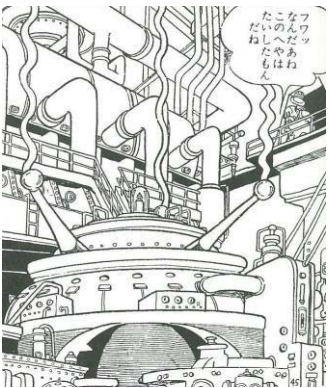
〈3分ことば表現トレーニング〉できたかな？
第8回は、だいぶ原稿が進まなかったのか、編集部への原稿渡しが遅れたのか、作業過程
が異なっていることに気づかされるところ、とりわけフウセンのなかのせりふ文字が渾て
活字化されていない手書き文字であることから判明する。その特徴あるところを抜粋し
てみると、



「おじさん!」「東京のまん中に、原ばく工場が、たてられるんですって!」「第8回5コマ」
 「あなたは、東京につくりつある原子ばくだん工場にはんたいして演説された」〔第8回21コマ〕



「かん太よ つよく正しく 生きよ 父」〔第8回25コマ〕
 「かん太! つよく正しく 生きてくれよ」〔第8回26コマ〕
 「ワンダー、わたしはどうぶんかえらんないかもしれないが、勉強したまえよ。そして、原爆からかんぜんに人間をまもれるものを發明することだ」〔第8回44コマ〕



あき洲の土地に得体の知れない工場が作られ始めていた。ヒゲオヤジことクズオヤジは、この工場内に入り、その中枢部を見たのである。



★「東京中の生き物があなたをなぶりころすぞ」〔41コマ〕「わしを……た いほしてくれ…… わしはけどものたちにもみすてられたあわれな犯罪者だ」〔42コマ〕おわり